

令和6年度 学校評価に関するアンケート項目一覧、および結果のまとめ

領域	アンケート項目	結果のまとめ
1 学校経営	単位制の良さを活かし、特色ある学校経営を行っている。	単位制普通科の夜間定時制高校として、特色と魅力をホームページ等で積極的に発信し、常に教育活動の自己点検・振り返りを行っている。今後も、スクールポリシーの具現化に向け、PDCAサイクルを回しながら、教育目標の実現を目指した実効性のある取組を継続する。
	教育方針や教育目標に基づき、効果的な教育活動を展開している。	
2 学習指導	基礎・基本の定着を目標に授業に取り組んでいる。	「授業実践交流会」等の実施により、授業改善が進んでいる。基礎・基本の定着を大切にした授業や、実生活に結びつけた学習内容、ICT機器の積極的な利活用等、生徒の興味・関心をさらに引き出せるような創意工夫のある授業実践を、今後も継続する。
	授業内容を工夫し、生徒をひきつける、わかりやすい授業の展開に努めている。	
3 生徒指導	生徒や保護者の悩みや相談に親身に対応している。	概ね肯定的な結果となっているが、いじめの未然防止と早期発見に今後も注力していく。生徒の情報交換会「水曜会」を活用したうえで、校外の関連機関や地域とも積極的に連携し、社会と連携して生徒を育成する姿勢で臨む。
	いじめの未然防止と早期発見に努め、適切な指導を行っている。	
4 進路指導	生徒一人ひとりの進路実現に努めている。	望ましい職業観・勤労観を育成するため、外部講師を活用して進路ガイダンスを実施するなど、今後も、働くことの意義・目的を、生徒一人ひとりが主体的に考えながら、就労意欲の喚起につながるような実効性のあるキャリア教育を実践していく。
	望ましい勤労観、職業観などの育成に努めている。	
5 特別活動等	豊かな人間性の育成を目指した特別活動に取り組んでいる。	ポストコロナの時代にあり、自粛していた諸学校行事を少しずつ再開し、仲間づくり、自治能力の育成、社会性の涵養を目標に掲げ、指導を行った。今後も、社会性と豊かな人間性が身に付くよう、特別活動の目標、指導内容、および指導方法を明確にして、取組の充実を図る。
	社会性を身につける教育活動に取り組んでいる。	
6 学校図書館	学校図書館が利用しやすいように工夫している。	生徒にとって利用しやすく、居心地の良い図書館の運営をめざし、環境整備を一層進めながら、今後は、国語や総合的な探究の時間等の授業での活用をより積極的に行うことで、生徒が主体的に図書館を利用するきっかけが作れるよう取組を進める。
	新着情報の案内など、読書に親しむ指導に努めている。	
7 保健・安全指導	心身の健全な発達を正しく理解させると共に、自己の体力・能力を伸長する指導に努めている。	インフルエンザや新型コロナ、マイコプラズマ肺炎等の感染予防対策については、日々継続して取り組み、成果をあげた。今後は、生徒の健康管理の意識が高まるよう指導を目指す。また、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等との連携をより一層密にする。
	生徒の事故・怪我・病気等への対応を適切に行っている。	
8 人権教育	すべての人の人権を尊重する観点で教育活動を行っている。	人権統一LHRや人権共同映画鑑賞では、学習の視点を絞り、生徒の心に訴える学習を目指して、人権意識が高まる指導を行っており、その結果、一定の肯定的な評価が得られている。今後も、生徒の心に響くような題材選びや企画の立案・運営を継続していく。
	LHRなどを活用し、人権意識を高める指導に努めている。	
9 環境教育	ゴミの分別をはじめとした環境教育に取り組んでいる。	今年度も、学校行事として琵琶湖岸の一斎清掃に、全校で取り組んだ。ただ、環境について学習する場面設定が十分ではなく、改善が必要である。今後は、環境問題に対して意識が高まるよう、各教科の授業で、環境をテーマとした学習内容を工夫して取り入れていく。
	教科学習の中に適切に環境学習を取り入れ、環境問題の啓発に努めている。	
10 事務・管理	文書管理を適切に行っている。	情報セキュリティの遵守を第一目標に据え、複数人で複数回、チェックする体制を基本とし、文書管理を行っている。また、施設や設備の安全点検については、消防署等の関係機関や産業医等外部専門家の指導・助言のもと、適切に管理・自己点検を行っている。これを今後も継続する。
	施設・設備の安全点検を適切に行っている。	
11 その他 学校の取組み	生徒一人ひとりの個に応じた対応・指導に取り組んでいる。	多様な個性を互いに認め合う学校風土づくりを念頭に置き、個々に寄り添った生徒指導・生徒支援を、全教員で丁寧に実践している。増加傾向にある「外国にルーツを持つ生徒」に対する日本語指導や就職支援等については、今後、より一層の充実を図りたい。
	全教職員が積極的に生徒を把握し、学校全体で指導に取り組んでいる。	

令和6年度学校評価におけるアンケート結果に係る学校独自の分析および次年度に向けての改善策

項目ごとの学校評価の活用等について(課題の改善に向けた具体的な取組み等)

- | | |
|---------|--|
| 1 学校経営 | <ul style="list-style-type: none">・単位制普通科の夜間定時制高校としての特色と魅力の強化を進めるために、生徒、保護者等、後援会会員、そして、地域からも意見や評価、提案を求めるとともに、後援会総会や学校評議員の会等において、改善に向けた協議を十分に行う。・学校の教育目標やスクールポリシー等を、生徒、保護者等、地域の方々に理解してもらえるよう、今年度リニューアルしたホームページを活用し、学校の取組や様子について積極的に情報発信する。 |
| 2 学習指導 | <ul style="list-style-type: none">・基礎学力の定着を図るために、実生活において役立つ題材や自主教材を多く取り入れ、生徒の学習意欲の向上につながる授業改善を心掛け、生徒が主体的に学べるような授業づくりにつながる教員の指導力の向上に取り組む。・学習活動では、学校DXの充実を図り、ICT機器等の活用により、個別最適な学習と協働的な学習を一体的に実践する。ICT担当者を中心に、授業改善に向けた職員研修や授業実践交流会を定期的に開催する。 |
| 3 生徒指導 | <ul style="list-style-type: none">・生徒一人ひとりが抱えている困難や課題について、すべての教員が共有することにより、生徒に寄り添った温かい指導・支援を行う。校外の関係機関やスクールカウンセラー等とも緊密に連携し、実効性のある生徒支援につなげる。・毎月開催している生徒情報交換会「水曜会」を、いじめの未然防止対策の一環として位置づけ、共有した情報をもとに、きめ細やかな指導を行い、いじめのない学校づくりを目指す。また、授業中や休み時間における校内巡視や見守り指導を今後も継続し、心理的安全性が担保された教育環境づくりを進める。 |
| 4 進路指導 | <ul style="list-style-type: none">・正しい職業観と勤労観を育成し、勤労意欲を高める進路指導を推進する。また、校外の社会人講師等を招いて講演会を定期的に開催し、生徒個々の夢や希望に寄り添いながら、社会が求めるたくましい人材の育成を進める。 |
| 5 特別活動等 | <ul style="list-style-type: none">・生徒会活動や部活動、学校行事等をとおして、多様な他者を認め合う「仲間づくり」を大切にし、主体性の涵養と自治能力の育成を念頭に置いた指導を推進する。今後もさらに工夫を加え、生徒会・学校行事等をとおして、より良い人間関係の構築や自治能力の育成を図る。 |

- 6 学校図書館
- ・本校でも、近年、スマートフォンに過度に依存する傾向等の影響により、生徒の読書に関する興味や関心は低下傾向にある。本に触れる機会を増やすため、図書館の整備を進めたり、国語等の授業で図書館の活用を取り入れたりしている。今後も、不読者率が下がるよう、引き続き、読書指導の充実を図りたい。
- 7 保健・安全指導
- ・インフルエンザや新型コロナウイルス感染症、マイコプラズマ肺炎等の対策として、教室内の常時換気、マスクの着用、うがい・手洗いの励行等の継続により、校内での感染拡大を防ぐことができた。今後もこの取組を継続し、生徒の事故やケガ・病気等を防ぎ、保健・安全に係る管理体制を一層充実させていく。
- 8 人権教育
- ・今年度も、新入生を対象とした「仲間づくり」をテーマにしたLHRをはじめ、テーマ別の人権統一LHRを実施した。外部講師による講演やワークショップ授業、人権教育共同映画鑑賞等も実施し、「仲間と共に学び、考え、感じる学習」をとおして、人権意識の育成に取り組んだ。今後も、テーマと学習の目的を明確にしながら、高い人権意識を兼ね備えた人材育成に取り組んでいく。
- 9 環境教育
- ・今年度も、全校ボランティア活動として、琵琶湖岸の清掃を実施した。また、定期的に教室を中心とした全校での清掃作業を実施した。今後は、日常の教室清掃やゴミの分別等をとおして、環境を整備する意識を向上させたい。
- 10 事務・管理
- ・学習環境の整備、安全管理や適切な会計処理等に係り、複数人による、複数回のチェックを行う体制を今後も取り組んで行く。
- 11 その他学校の取組
- ・多様なニーズや課題を抱えた生徒一人ひとりに応じた適切な支援や指導を目指し、生徒情報交換会「水曜会」は継続して開催していく。より効果的な情報交換のあり方を検討し、組織としての対応力の強化につなげていきたい。「学び直し」、「働きながら学ぶ」、「外国にルーツを持つ生徒への指導・支援」を、本校の教育活動の主要な柱と位置づけ、特色ある教育活動の展開と魅力化を進めていきたい。
 - ・大学等と連携し、学校設定科目「日本語」の授業の充実をはじめ、「外国にルーツを持つ生徒に対する日本語教育」の発展的な充実に向けて、県事業「日本語指導システム構築事業」を有効に活用し、学習環境の一層の整備に努める。